
なその野望

ペタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なぞの野望

【Nコード】

N1118I

【作者名】

ペタ

【あらすじ】

メテオGなくなつてから平和な暮らしを営んでいたスバルの学校に転校生が・・・そんな中スバルはまた戦いに身を投じる

第0話

「くっくっくっく。復活までもう少しじゃ」

暗闇の中、一人の老人がつぶやいた。

その言葉に一人の電波対が答えた。

「はい、あと1年ほどで」

「くっくっく、はーはっはっは」

目の前には、赤い巨大な鳥と、青い巨大な獣がいた。

――スバル家――

「母さん、行ってくる」

「はい、行ってらっしゃい」

すると、まるで狙ってたかのようなグッドタイミングでチャイムが鳴った

「やば！、委員長来ちゃった」

家を出ると委員長軍団（白金ルナ、牛島ゴンタ、最上院キザマロ、ジャック、双葉ツカサ）が長時間待つ体制になっていた。きっと、スバルが当分こないと思っていたのだろう。

「あら、今日は珍しく早いね」

委員長が驚きながら、<珍しく>を強調したのは聞き間違いではないだろう。

「けっ、相変わらずいやみやつだぜ」

「あら、あなたも相変わらずがさつね」

「なんだと〜」

「あら、何かしら」

「ウォーロック、止めなよ」

「委員長も、学校に遅刻しちゃいますよ」

喧嘩が激しくなるのを恐れ止めに入った。

「あら、もうこんな時間。委員長として遅刻できないわ。ほら、それじゃあ行くわよ」

そういつてみんな学校に向かおうとしたとき、

「すみません、星川スバルさんですね」

記者を見た瞬間スバルは気絶した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1118i/>

なぞの野望

2010年10月8日22時26分発行